

## 日本語教師の意識調査分析

### —日本語教科書における女性文末詞使用に関して—

水本光美

標準語を話す現在の若い世代の日本女性は、従来型の文末に現れる女性文末形式を特殊な意図的な場合以外は使用しない。しかし、日本語教育の現場で広範に使用されている日本語教科書をはじめとする教材においては、若い世代の女性登場人物は女性文末詞を多用する。これに関して、日本語教材を扱う日本語教師がどのように考えているか意識調査を実施したところ、約3分の1近くはなお、日本語教材の現状をよしとしており、中にはジェンダー意識に基づいた理由を挙げる者も存在する。しかし、7割以上が、現状に即していない文末詞使用はするべきではないというアンケート調査結果からしても、女性文末詞が若い世代の発話から消滅し始めて20年が経とうとしている今、日本語教科書はこの日本語の変化を反映する時期が来ているのではないだろうか。

キーワード：女性文末詞、若い世代の女性、日本語教科書、日本語教師、ジェンダー意識

#### 1. はじめに

##### 1. 1 研究目的

ことばは、徐々に時代を超え変化するものであるが、時折、時代のニーズに敏感に反応して急速に変化することもある。近年、日本語も、いわゆる「ら抜き言葉」のような若者ことばによる多様な変化が一般に浸透したり、若い

世代の女性の話すことばが乱暴になったとしばしば指摘されたりと、若者の発することばの変化は急速に進んでいる。中でも、文末に表現される形式で女性を表す指標である女性文末形式（以後「女性文末詞」という）の“不使用”は、90年代からここ20年間、急速に進んでおり、首都圏の標準語を話す20代から30代の若い世代の女性達によるごく親しい間柄とのくだけた会話においては、ほぼ消滅してしまっている。このことばの変化に関して、日本語の教科書は、この20年間ほとんど注目しておらず、新版の教科書も最近改訂された教科書も、女性文末詞の使用に関しては、従来通り、年代を問わず多使用の態度を保留している。

本研究では、まず、日本語教科書を主とする教材（聴解問題集・日本語検定を目的とする試験の聴解部分も含む）の中に出現する若い世代（20代30代）による女性文末詞“多使用”実態と、実社会で若い世代に現実に使用されていない女性文末詞“不使用”実態に関し、先行研究結果を紹介しつつ比較する。次に、その日本語教材を日々使用している日本語教師を対象としたアンケート調査結果を紹介し、日本語教育現場の教師の意識を分析する。その上で、日本語教科書が、なぜ、ことばの変化に関して反応がゆるやかであるのか、その原因を探り、今後の日本語教科書の歩む方向を見いだしたい。

## 1. 2 先行研究の概要：実社会の若者による女性文末詞消滅

実社会において若い世代の女性達が友人や家族など、ごく親しい間柄で話す自然会話に関する先行研究（三井 1992, 小林 1993, 尾崎 1997, 小川 1997, 2004 など）は、いずれも、女性文末詞が以前ほど使用されなくなってきたことを報告している。筆者も2004年以来数年間の自然会話（標準語を話す女性の友人同士による30分間のおしゃべり＝普通体による会話）のデータを収集し、先行研究（水本 2005, 2006, 水本他 2006, 2007, 2008 など）において、その消滅傾向がさらに進んでいることを確認した。<sup>1)</sup> また、同時期のアンケ

ート調査結果より、現在の若い世代の女性たちのくだけた会話からは、特殊な使用（冗談・気取りなど）を除いては、女性文末詞がほぼ消滅しつつあるということを数値的にも立証した。<sup>2)</sup> この一連の研究により、明らかにしたことは以下の通りである。

(1) 女性文末詞の代表とされる「かしら」「わ」「わよ（ね）」「わね」「体言+ね」「体言+よ（ね）」「のよ（ね）」の7種（いずれも上昇調のイントネーションによる）は、標準語を話す若い世代の女性たちの友人同士のくだけた会話からはほとんど消滅しかけている。（図1参照）

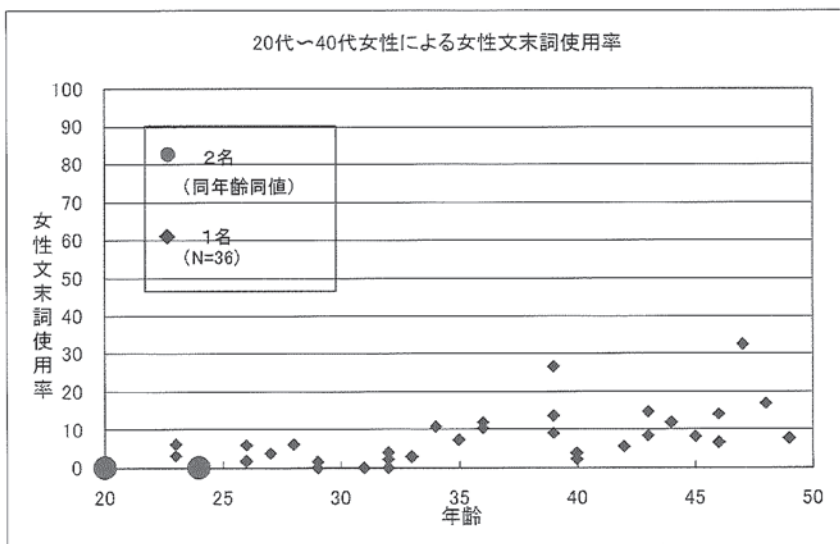


図1 自然会話の女性文末詞使用率（20代～40代）

- (2) 現在の若い世代の女性たちの意識の中では、女性文末詞は、友人同士の気楽な会話では使わないことばであり、もし使うとしたら、次の図2で示すとおり、一種の特殊場面で使用する特別なイメージを持つことばとして捉えられている。

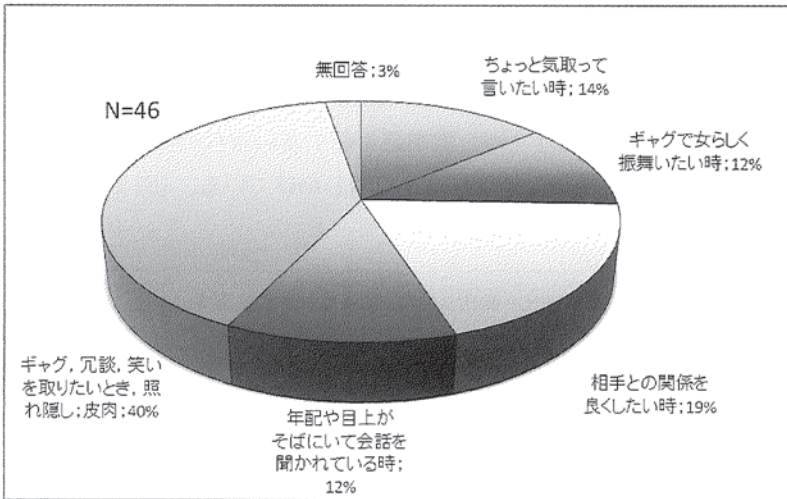


図2 20代・30代の若い世代の女性が敢えて女性文末詞を使用する場合

[注意]回答中19%の「相手との関係を良くしたいとき」の「相手」というのは、女性文末詞を日常的に使用する年配の女性たちである。

なお、ここで確認しておきたいが、本稿で「不使用」とする女性文末詞は上述(1)の7種であり、「の(肯定形・否定型)」、「のね」や下降形の音調の「わ」などは含まれない。これらは、今なお若い世代の女性にも使用されているということが、先行研究(水本2005)において確認されている。

### 1. 3 先行研究の概要：日本語教科書における女性文末詞使用状況

女性文末詞に焦点をあてた日本語教材の調査研究は少なく、KAWASAKI & MCDUGALL (2003)のものが唯一、明確な独自データが紹介されている研究である。KAWASAKIらは、日本語教科書の調査の結果、教科書の中のキャラクターの話し方は男性も女性もステレオタイプ化されていると報告している。しかし、分析対象もデータ量も限られている。より確実な統計をとるために、筆者は、先行研究(水本他 2009)において、上述の自然会話と同じ分析法を用い、日本国内の日本語教育現場で広く使用されている日本語教材(主に初中級の教科書、聴解副教材、日本語能力試験の聴解、日本留学試験の聴解・聴読解など)から、1994年以降に発行されたもの全39冊を選出し、20代30代の若い世代の女性キャラクターが登場するダイアログを調査分析した。それ以前のものを含めなかったのは、実社会において若い世代の女性たちが女性文末詞をまだ使用していたからであり、本研究目的のためには、使用しなくなった時期以降に制作されたもので制作年が出来るだけ新しいものを調査対象としてデータ収集する必要があったためである。

詳細な調査方法および結果は先行研究(水本他 2009)を参照していただきたいが、次の図3は、調査した日本語教材と実社会における、若い世代の女性による会話中の女性文末詞使用率比較である。その調査から次の点が確認された。

- (1) 日本語教材中に現れる若い女性の女性文末詞使用率は、近年の日本留学試験<sup>3)</sup>を除き実社会における自然会話の10倍から15倍と非常に高い。
- (2) 多くの日本語教科書のカジュアル会話において、女性の文末詞は男性の文末詞と対比的に導入され、年代、国籍に関わらず性別による話し方の違いが存在する。

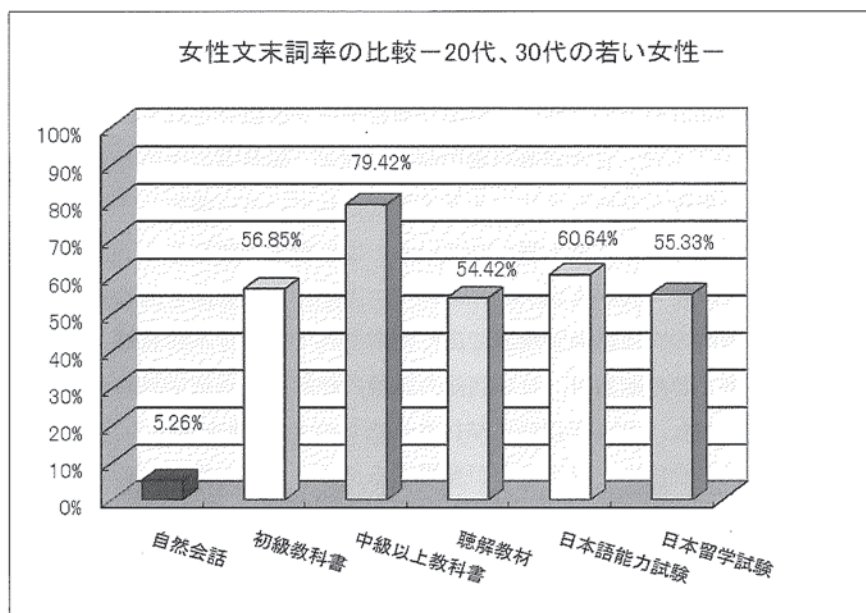


図3 女性文末詞平均使用率比較

このように、日本語教科書をはじめとする種々の教材では、女性文末詞は現実の「若い世代による不使用」という変化を反映することなく、今日に至っている。21世紀に入り、改訂版を発行した教科書において、取り扱うテーマや内容を現状に合わせてアップデートしていても、この文末詞に関する扱いは、ほとんど従来通りで何の変化もない。若い世代の女性による頻繁な女性文末詞使用が日本語教育の現場では学習者に教えられ続け、かつ、実際にその使用練習も継続され続けているのである。

## 2. 日本語教師に対する意識調査

### 2. 1 調査目的

先行研究（水本他 2009）においては、なぜ、日本語教材や試験問題で若い世代の女性登場人物に女性文末詞が多用され続けるのか、その理由を推察してみた。まず、考えられる第一の原因としては、教師の無関心である。教科書作成者は、現在の日本社会における日本語の使用実態を把握せず、固定観念のまま教材を作成している可能性もある。第二に、仮に実態を把握していても、男言葉女言葉の存在は日本語の特徴として教えるべきであるとする教材作成者もいるであろう。第三に、女性文末詞は丁寧な響きを持ち、女性は丁寧に話すことが望ましいという立場に立てば、「女性の美しい文末詞は日本語の特徴として継承してゆくべきである」という考え方もあるだろう。さらに、女性文末詞に代表される日本語のジェンダーを日本文化の一つとして積極的に教えるべきであるという立場もあるであろう。

これらの教材を日々現場で使用している日本語教師は、この現実をどのように捉え、自らの教育現場では、どのように教えているのだろうか。その疑問が先行研究の課題となり、その課題に答えるべく、本研究では、教える立場としてこれらの日本語教科書・教材を使用する日本語教師の意識調査を実施した。この調査の女性文末詞に関する項目においては、次の点について把握することを目的とする。<sup>4)</sup>

- (1) 現在の女性文末詞使用状況を、どの程度知っているか。
- (2) 日本語教科書において男女の文末形式が対比的に紹介されていることに関してどう考えているか。
- (3) 日本語教科書で若い世代の女性登場人物の発話に女性文末形式が使用されていることをどう考えるか。
- (4) 日本語教科書に於いて、文末形式等ジェンダーに関することをどのように教えるか。

以上の目的に関する質問を作成しその回答内容を分析することにより、ジェンダーに関する意識やジェンダーに関する事柄をどう教えたらいかにについて教師の考え方が明らかに出来ると考えた。

## 2. 2 調査方法

- (1) 調査時期：2010年5月から7月
- (2) 調査対象：日本語教師および日本語学・言語学・日本語教育関係者  
日本国内在住(101名)、韓国在住(17名)

〈内訳〉

- i. 日本国内在住者：日本人女性(83名) 外国人女性(6名)  
日本人男性(12名) 外国人男性(0名)
- ii. 韓国在住者：日本人女性(11名) 外国人女性(1名)  
日本人男性(3名) 外国人男性(2名)

男女比は約6対1であるが、これは、日本語教師が圧倒的に女性が多いという現状を反映していると言える。回答者の年代は、20代11名、30代36名、40代33名、50代23名、60代15名であった。職業は、92%が日本語教師であり、そのうち8名が日本語教育を専門とする学生でもある。

- (3) 調査方法：インターネットのアンケートソフト「アンケートツクール」を用い、アンケート質問をネット公開。日本語教育関係の諸学会・諸研究会のメーリングリストで回答を呼びかけた。各設問は選択方式であるが、それを選んだ理由や例については、コメント欄を設けた。

回答協力者は、主に次の学会・研究会の会員および関係者である。

- 日本語ジェンダー学会
- 日本語プロフィシエンシー研究会



- 日本語 OPI 研究会
- 九州 OPI 研究会
- 韓国 OPI 研究会

なお、この調査は同時にヨーロッパ在住の回答者対象にも実施したが、本稿では、日本国内と韓国在住者の回答にしぼって調査結果を報告する。

## 2. 3 調査結果

### 2. 3. 1 若い世代による女性文末詞不使用の実態認識について

まず回答者が、「現在の若い世代の女性たちが日常生活のカジュアルな会話において女性文末詞を用いない」という現実を認識しているかどうか確認したところ、91%がその事実を知っていると答えた。(図4参照)

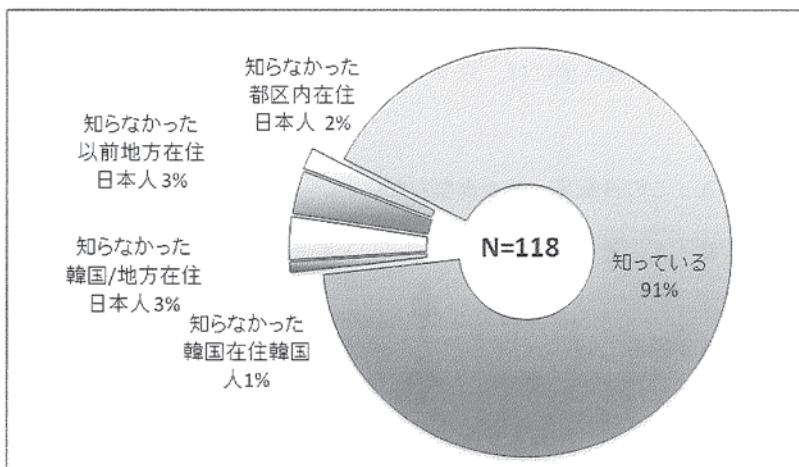



図4 若い世代の女性文末詞不使用を知っているか



「知らなかった」と答えた 11 名の内訳は、韓国在住の韓国人日本語教師 1 名、外国か地方在住日本人日本語教師 4 名、現在は都内か首都圏在住だがこれまでに地方に 10 年以上住んでいたことのある日本人日本語教師 4 名、そして東京都区内在住の日本人日本語教師 2 名である。地方在住者であれば、日常的に地方語を用いているため、知らなかったというのは、うなずけるし、外国在住者のように日本語を話す日常から離れていれば、それも理解できる。しかし、予想外であったのは、東京都区内以外には住んだことのない 30 代の日本人日本語教師 2 名が知らなかったということである。しかし、この 2 名に関しても、1 名は地方出身者で「使う場合もある」という意味合いである。残る 1 名に関しては、「ことばの男女の区別は自然である」という立場で回答している。いずれにしても、日本語教師を主とする日本語教育関係者のほとんどが現状を認識しているということが確認できた。

### 2. 3. 2 教科書における男女別文末詞の使用法提示について



多くの日本語の教科書には、以下のように男女の文末形式が対比的に紹介されている。

例 1. A : この自転車、じゃまなんだけど。

B : え、そう。  (上昇系のイントネーション)

A : 困る { よ。   
わよ。 

B : ごめん。これから気をつけるから。

A : しようがない { な。   
わね。 

例 2. [ \*よ=used by females, だよ=used by males ] [Casual Style]

A : そつろんってなんのこと？ときどき聞くんだけど。

B : あ、卒論っていうのは卒業論文の略で、・・・つまり、  
4年生のときに書く論文のこと [よ/だよ\*]。

例 3. <男の人の会話>

A : 天気はどうかな。

B : 晴れるそうだよ。

<女の人の会話>

A : 天気はどうかしら。

B : 晴れるそうよ。

\* 上述例 1 から 3 は水本他(2009)より抜粋

この男女の文末形式の差は、多くの初級教科書で導入的に紹介され、それに続いて、このような男女差を意識したダイアログや練習問題などで学習者にインプットされる。確かに、このような差異は、現在でも 50 才代以上の男女の日常会話には頻繁に用いられているため、差異が存在すること自体を紹介することに関しては異論はない。ただし、例 2 のように、明らかに学生同士の会話と分かる場合は問題ないだろうか。学生というなら、教科書で紹介される登場人物は 20 代の若い世代である。現在の若い世代の女性は「・・・論文のことよ」という「名詞+よ」のような女性的な文末詞の使い方はしない。現状では男女の文末詞の区別はなく、男女とも「名詞+だよ」が使用されている。このことは、小川 (1997) や水本の一連の先行研究 (水本 2005, 2006、水本他 2006, 2007, 2008 など) にてデータの的にも証明されている。したがって、このような例は、20 年前では当然のことであっても、現在の若い世代の話し

方からみれば不適切な状況設定である。

アンケート調査では、この差異をパターン化して導入することが必要であるか不必要であるかの二者択一で回答してもらった。その結果、81%が必要であると答えた。その主な理由としては、若い世代が女性文末詞を使用しなくなったという変化を認めつつも、「小説・まんが・アニメ・ドラマ・映画などで多数使用されているため、その理解に必要」「年配など年代によってはまだ使われているため」「場面・話題・話者との関係などによって必要な場合がある」という意見が全体の3分の2以上を占めていた。(図5参照)

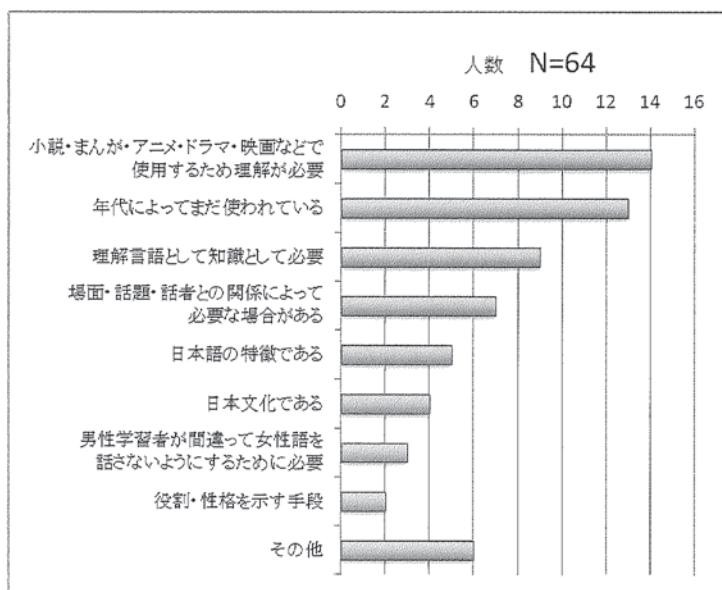


図5 教科書で男女別文末詞を対比的に提示することが必要な理由

一方、文末詞の男女差をパターン化して導入する必要がないという理由としては、年代によって、あるいは、映画・マンガ・ドラマなどで、男女差のあ

る文末詞が使われていることを認識しつつも、大半が「現実に使われていない」「実情にあわない」「若い世代だけではなく地方でも使用されていない」ものをモデル化することに違和感を覚えている。「理解言語としては認識の必要性はあるものの、積極的な会話モデルとしては、実情を反映したニュートラル表現で充分である」というのが、この立場にたつ教師の主な考えである。

### 2. 3. 3 教科書のダイアログなどにおける若い世代の女性登場人物が使う女性文末詞について

日本語教科書や日本語能力試験・日本留学試験などのダイアログや会話や練習会話では、若い世代の女性登場人物の発話に女性文末形式が多用されている。その傾向は、中級教科書では顕著に表われ、会話は男女の話し言葉の違いを前提とした扱いになっている。次の例4から6は、異なる教科書からの会話例であるが、若い女性も女性文末詞を多用している。

- 例4. 女子学生：今日のクラスでの発表、上手だったわね。  
男子学生：ほんと？あがちゃってうまくできなかったんだけど。  
女子学生：そんなことないよ。すごくよかったわよ。
- 例5. 男：少しずつ慣れてきたけど、学生時代と違うよね。  
女：そりゃそうよ。私の方は通勤時間が長くて大変よ。  
毎日うちに帰ったら寝るだけよ。S君はいいわね。寮だから。
- 例6. 男：ぜひ、来てほしいんだけど。  
女：おもしろそうね。行ってみようかしら。

また、このような女性文末詞は日本人話者だけでなく、若い外国人話者である女子留学生の発話にも多く見られる。例7から例9も、それぞれ異なる教科書からの会話例である。

- 例7. 日本人男：おうわさは山下君からいつも聞いています。  
留学生女：え、どんなことかしら。

- 例 8. 留学生男：今日の試験どうだった？難しかったんじゃない？  
留学生女：そうね。最初の問題はやさしかったと思うけど。あとのは自信がないわね。
- 例 9. 留学生女：それなら聞いてみようかしら。  
日本人女：12日の4限の後だけど、時間、大丈夫？  
留学生女：12日ってことは、金曜日よね。困ったわ。実はね、金曜日の夕方はゼミの先生と約束しているの。

このように、現場で使用されている日本語教材においては、話者が女性である場合は、年齢、国籍に関わらず、若い女性でも、現実には使用されていない女性文末詞の使用例が頻繁に認められる。

このような教科書の会話例を現場で教える教師はどのように考えているのだろうか。次の図6に示したアンケート結果によると、「良いと思う」は29%で、その理由の中には、「女性が男性と同じ話し方だと変に感じる」「女性文

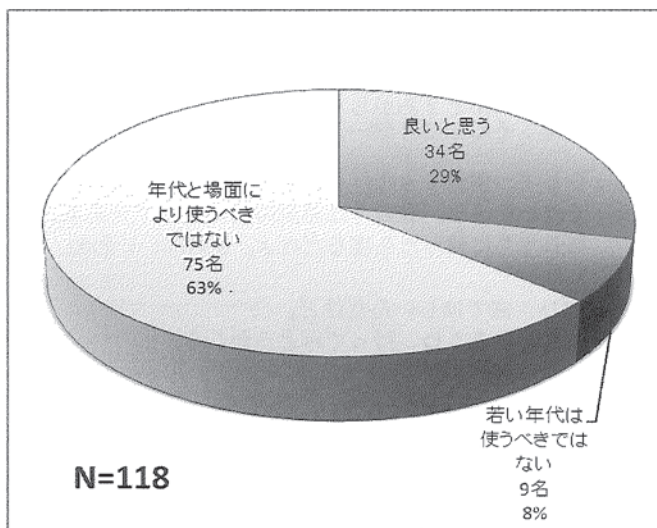


図6 若い女性に女性文末詞を使わせる教科書の会話の是非

末詞を学んでいない女性の学習者が悪い印象を持たれる可能性がある」「そのほうが正当な日本語という感じがする」というように、明らかにジェンダー意識に左右されている意見がある。

また、「教科書が必ずしも実際の会話形式に100%反映する必要はない」「あくまで表現の一例であり教師の指導によるもの」など、従来の基本となる女性文末詞は教科書でおさえておき、現実との違いに関しては教師の裁量で埋めて行けばよいと考えている教師も少なからず存在する。

あとの70%以上の教師は、このような教科書の会話は現実とはかけ離れており、問題があると捉えていることが分かった。(63%が「年代と場面により使うべきではない」、8%が「若い世代は使うべきではない」)最も答えが多かった「年代と場面により使うべきではない」と考える回答者は、若い世代の女性が女性文末詞を使用していないことを認識し、このような教科書の会話例は「現実とかけ離れて不自然」であり、「学習者も同世代の日本人の話し方を学習することを望んでいる」ため、「実情に合わせた自然な使い方を提示すべきである」との意見である。「育ち・性格・場面・場合などにより、使用することもある」と考えている点で、8%の「若い世代は使うべきではない」と全否定する回答者と若干意見が異なる面がある。しかし、その約20%は、「女性だからというステレオタイプ的な使い方は問題」「過度な使用により誤った認識、ジェンダーに反映する恐れあり」「若い学習者がテキストと現実とのギャップに戸惑う」など、このような教科書の女性文末詞の使い方に危惧を抱いている。現在の教科書の女性文末詞の使い方に関して、「実情に合わせた自然な使い方をすべき」「学習者も同世代の自然な話し方を学習したいと望んでいる」「時代に合わせた教育をすべき」というのが、大方の日本語教育関係者の意見であると言えよう。

#### 2. 3. 4 考察

以上のアンケート調査結果より見えてきたのは、次の3点である。

日本語教育関係者は、そのほとんどが、あるいは多くが、

- (1) 現在の若い世代の女性が女性文末詞を使用しなくなっているという現状に気づいている。
- (2) 日本語教科書において男女の文末詞の差異を提示することは、小説・マンガ・アニメ・ドラマ・映画などで、今なお、それらが表現されており、いまだ使用している年代もあるため、知識として教え、聞いて理解できる様に教育する必要があると考えている。
- (3) しかし、教科書中の若い世代の女性登場人物に現実では使用されていない女性文末詞を使用したダイアログを提示することは回避すべきであると考え、より現状に即した自然な言語使用を求めている。

ただし、(3)については、大多数ではないにしても、なお29%が現状の教科書のあり方のままで良いと答えている。その理由には、「教師の裁量による」とする意見が多く、この部類に属する教師であれば、おそらく、現場の教育で随時、時代の変化に即した情報を発信していることが期待される。しかしながら、「女性が男性と同じ話し方だと変に感じる」「女性文末詞を学んでいない女性の学習者が悪い印象を持たれる可能性がある」「そのほうが正当な日本語という感じがする」「美しいやわらかい女性らしいことばを日本文化として残したい」など、ジェンダー意識に影響されていると思われる理由が少数ながら(5名)存在していた点には注視しなければならない。このジェンダー意識にとらわれ続けられれば、実情とは乖離した日本語教科書の中の世界の「若い女性による女ことば」が一人歩きして学習者にパターンとしてインプットされ、「学習者は、教科書と現実とのギャップに当惑し」「その結果、教室の外で笑われたりして恥ずかしい思いをする」という可能性もある。これは、アンケートにおいても多くの教師が憂慮している点である。



また、「年代と場合により使うべきではない」を選択した63%は、本稿の図2でも示したように、若い世代が女性文末詞を日常は使用しないが、時として場合と目的により意図的に使用するという意識したうえでの回答であると思われる。また、その事実や、中年以上の女性達が女性文末詞を今も尚使用しているという現実を重視してのこととも考えられる。しかしながら、教科書に出現する会話の状況設定は、そのような「冗談」「ギャグ」「気取り」「皮肉」と言った特殊場面や一部の「お嬢様」キャラクターの発話ではなく、ごく普通の若い学生や留学生および若い社員などの友人や同僚や家族との“普通の会話”である。そこに敢えて特殊な意味合いの女性文末詞を提示する必要があるだろうかという疑問が生じるのも否めない。

いずれにせよ、「若い世代は使用すべきではない」と答えた8%と合わせて、71%が現実の社会での言語使用状況を確実に把握し、実情に即さない言語使用を教科書で提示することに違和感を抱いていることは事実である。

### 3. まとめと今後の課題

多くの教科書や教材が、この実社会の現状を反映しない従来型の女性文末詞使用を日本語のモデルとして提示し続ける限り、日本語教師は今後も、この違和感を抱きながら「この使い方は、現在では使われていない」と教科書の内容をその都度否定して教えなければならない。筆者も、長年、その違和感と不合理さに困惑しながら、その事実を学習者に伝えてこなければならなかった。また、内容が適切であっても、この不適切な文末詞の多用性ゆえに、教室での使用を断念せざるを得なかった教科書も少なくない。若者の文末詞使用状況における変化が注目され始めてから約20年が経過したが、その間、教科書におけるその変化は注目されないまま、今もなお、年配の世代と同様に若者世代にも使わせており、そのような教科書群が日本語教育ではいまだ一般的である。

なぜ日本語の教科書はこのジェンダー表現である女性文末詞の消滅を教科書に反映しないのだろうか。もちろん、教科書をいったん発行すれば、その後の改定は容易なことではなかろう。しかし、改定された教科書においても、女性文末詞の若い女性による“不使用”が反映されないということは、製作者は、まだ根強く「女性文末詞＝日本語の特徴＝継承すべき日本文化」という意識や「若い女性＜中年以後の女性」という図式に支配されているとも推察できる。しかし、従来のジェンダー意識にとらわれ過ぎて若い世代を無視し、実際には使われていないことばづかいを典型として学習させることは期待される教師像ではないだろう。我々が教えている学習者の大半は若い世代であり、彼らが望んでいるように、彼らが学習することばを、より現状に即したものに近づける努力は忘れてはならないのではなかろうか。また、若い女性による意図的な女性文末詞使用法が存在するからという理由で、教科書中のそのような特殊な使用ではない場面や状況における女性文末詞使用をよしとするのも、学習者の誤解を招きかねない。教える立場の者は、ことばづかいの変化と実情に常に敏感になり、より学習者の求める「生きた日本語（現在実際に使われている日本語）」という生の情報を伝える義務があるのではなかろうか。

若い世代の文末詞に関して、日本語の教科書はこのままで良いのだろうか。このアンケート調査結果から、そのような疑問がさらに大きく膨れあがってきた。調査に回答した118名の7割以上の日本語教師が不自然であると考えている若い世代による女性文末詞は、そろそろ教科書においても、その扱いを再考してもよい時期に到達しているとみられる。教科書執筆者がこの時の流れを諦観し、今後の教科書製作に実情を反映する努力を惜しまないことを大いに期待したい。

本稿で報告した調査結果は、日本国内および韓国に居住する日本語教育関係者の回答によるものであった。同時に、欧州居住者に対しても同様なアン

ケート調査を実施したが、今後は、その結果を分析し本稿の調査結果と比較分析を試みたい。さらに、日本語教科書に潜む多くのジェンダー問題に関する調査結果分析も進め、今後、日本語教科書の抱える問題をどのようにして解決すべきかに関して研究を進めてゆきたい。

## 謝辞

本稿執筆にあたり、アンケート調査にご協力いただいた次記学会・研究会の役員および会員の皆様に、深謝する。

- 日本語ジェンダー学会（佐々木瑞枝会長）
- 日本語プロフィシエンシー研究会（鎌田修会長、嶋田和子副会長）
- 日本語 OPI 研究会（西川寛之会長、神山光子会計監査）
- 九州 OPI 研究会（権藤早千葉副会長）
- 韓国 OPI 研究会（早矢仕智子会長）

## 注

- 1) 詳細な調査内容および分析法・結果に関しては次の論文2種を参照。
  - a. 水本光美・福盛寿賀子・高田恭子（2007b）「会話指導における女性文末詞の扱い」、『第6回 OPI 国際シンポジウム：発表論文集』、関西 O P I 研究会他, pp.85-90.
  - b. 水本光美・福盛寿賀子・高田恭子（2009）「日本語教材に見る女性文末詞—実社会における使用実態調査との比較分析—」、『日本語とジェンダー』第9号,日本語ジェンダー学会, pp.12-24.（以下、学会ウェブサイト掲載）[http://wwwsoc.nii.ac.jp/gender/journal/no9/02\\_mizumoto.html](http://wwwsoc.nii.ac.jp/gender/journal/no9/02_mizumoto.html)
- 2) 2004年から2006年までに自然会話を収集した際に、会話参加者の女性達にアンケート調査も実施した。本稿で紹介するのは、20代24名、30代22名の調査結果の一部であり、「日頃少しでも使う場合があるのは、次のどのような

場合ですか」という質問に対して、答えてもらった結果の統計が図2である。

- 3) 平成16年第一回の日本留学試験では、若い世代の女性文末詞使用率は、78.26%であったが、年を経るごとに減少傾向が認められ、特に平成18年からは30.43%と減少傾向がさらに進み、平成19年以降は5.88%、14.29%、7.14%と極めて低い数値を示す。平成19年第1回と20年の第1回の数値は自然会話における同年代の使用率とほぼ同程度であり、高頻度が続く日本語能力試験とは異なる傾向を見せている。
- 4) 実際には、このアンケートでは、女性文末詞に関する質問の他にも教科書に表されている日本女性の役割や社会的地位、家族形態などについても質問したが、本稿では、前半の女性文末詞に関する質問に対する回答の部分のみ調査分析する。

#### 参考文献

- 小川早百合 (1997) 「現代の若者会話における文末表現の男女差」, 『日本語教育論集-小出詞子先生退職記念-』, 凡人社, pp. 205-220.
- 小川早百合 (2004) 「話し言葉の男女差-定義・意識・実際-」, 『日本語とジェンダー』 vol.4, 日本語ジェンダー学会.  
[http://wwwsoc.nii.ac.jp/gender/journal/no4/B\\_ogawa/htm](http://wwwsoc.nii.ac.jp/gender/journal/no4/B_ogawa/htm)
- 尾崎喜光 (1997) 「女性専用の文末形式のいま」, 現代日本語研究会編『女性の言葉・職場編』, ひつじ書房, pp. 33-58.
- 小林美恵子 (1993) 「世代と女性語-若い世代の言葉の『中性化』について」, 『日本語学』, 12-6, pp.181-192.
- 水本光美 (2005) 「テレビドラマにおける女性言葉とジェンダーフィルター-文末詞(終助詞)使用実態調査の中間報告より-」, 『日本語とジェンダー』 第5号, 日本語ジェンダー学会, pp. 23-46.  
[http://wwwsoc.nii.ac.jp/gender/journal/no5/3\\_mizumoto.htm](http://wwwsoc.nii.ac.jp/gender/journal/no5/3_mizumoto.htm)

- 水本光美 (2006a) 「テレビドラマと実社会における女性文末詞使用のずれにみるジェンダーフィルタ」, 日本語ジェンダー学会編『日本語とジェンダー』ひつじ書房 pp. 73-94.
- 水本光美・福盛寿賀子・福田あゆみ・高田恭子 (2006b) 「ドラマに見る女ことば『女性文末詞』-実際の会話と比較して-」, 『国際論集』, 第4号, 北九州市立大学, pp. 51-70.
- 水本光美・福盛壽賀子 (2007a) 「主張度の強い場面における女性文末詞使用-実際の会話とドラマとの比較-」, 『北九州市立大学国際論集』第5号, pp. 13-22. [http://www.kitakyu-u.ac.jp/gkj/2007\\_kr1\\_5.html](http://www.kitakyu-u.ac.jp/gkj/2007_kr1_5.html)
- 水本光美・福盛壽賀子・高田恭子 (2007b) 「「会話指導における女性文末詞の扱い」, 『第6回OPI国際シンポジウム: 発表論文集』, 関西OPI研究会他, pp. 85-90.
- 水本光美・福盛壽賀子・高田恭子 (2008a) 「「ドラマに使われる女性文末詞-脚本家の意識調査より-」, 『日本語とジェンダー』第8号, 日本語ジェンダー学会, pp. 11-26.  
[http://wwwsoc.nii.ac.jp/gender/journal/no8/02\\_mizumoto.html](http://wwwsoc.nii.ac.jp/gender/journal/no8/02_mizumoto.html)
- 水本光美・福盛壽賀子・高田恭子(2009) 「日本語教材に見る女性文末詞 - 実社会における使用実態調査との比較分析-」, 『日本語とジェンダー』第9号, 日本語ジェンダー学会, pp.12-24.  
[http://wwwsoc.nii.ac.jp/gender/journal/no9/02\\_mizumoto.html](http://wwwsoc.nii.ac.jp/gender/journal/no9/02_mizumoto.html)
- 三井昭子 (1992) 「話し言葉の世代差—終助詞と副詞を中心に—」, 『ことば』13, 現代日本語研究会, pp.98-104.
- KAWASAKI, Kyoko & MCDUGALL, Kirsty. (2003) Implications Representations of Casual Conversation: A Case Study in Gender-Associated Sentence Final Particles. 『日本語教育論集 世界の日本語教育』13, 国際交流基金日本語国際センター, pp.41-55.

## 調査日本語教材リスト

		書名	出版年	出版社	
日本語教科書	初級	Situational Functional Japanese: Model Conversation	1994	凡人社	
		Total Japanese: Conversation 2	1994	早稲田大学	
		みんなの日本語	1998	スリーエーネットワーク	
		げんきⅡ	1999	The Japan Times	
		文化初級Ⅱ	2000 改訂	凡人社	
	中級	中級の日本語	1994	The Japan Times	
		ニューアプローチ 中級日本語 (基礎編)	2002	日本語研究社	
		J Bridge	2002	凡人社	
		なめらか日本語会話	2005 改訂	アルク	
		まんがで学ぶ日本語会話術	2006	アルク	
		会話の日本語	2007 改訂	The Japan Times	
	中上級	ニューアプローチ 中上級日本語 (完成編)	2002	日本語研究社	
	聴解副教材	初級	毎日の聞き取り50日(下)	1998	凡人社
			楽しく聞こう	2000 改訂	文化外国語専門学校
			聴解が弱いあなたへ	2000	凡人社
Total Japanese Conversation 2 問題集			2000	早稲田大学	
みんなの日本語Ⅱ 聴解タスク25			2005	スリーエーネットワーク	
テーマ別日本語(ワークブック聴解)			2004 改訂	研究社	
中級		日本語生中継(中上級)	2004	くろしお出版	
		日本語生中継(初中級1)	2006	くろしお出版	

試験	能試	平成 15 年度～19 年度：日本語能力試験問題と正解 (1 級 2 級)	2004-2008	凡人社
	留試	日本留学試験 試験問題：16 年度～19 年度 (第 1 回, 第 2 回) 20 年度 (第 1 回)	2004-2008	桐原書店

### アンケート内容 (本稿内容に関係のある部分のみ)

\*\*\*\*\* アンケートについての説明 \*\*\*\*\*

日本語教科書には、様々なジェンダーが観察されます。

日本語には、「(だ) わ」「わよ」「わね」「かしら」「のよ」などの、従来、女性が使用するとされている尻上がり調の女性特有の文末形式が存在しています。

これらの女性文末形式は、男性特有の文末形式と対照的に紹介され、ほとんどの日本語教科書において、ダイアログや練習などに出現しています。

また、教科書の中に描かれている女性像や女性の役割なども、必ずしも日本社会の現状を反映しているとは言えないものも見受けられます。

このアンケートは、日本語教育関係者の方々がこれらの問題をどのように考えていらっしゃるかを調査するものです。

回答対象者：日本語教育関係者（日本語教師、日本語/言語学の教師および学生）

回答にかかるおよその時間：5 分～10 分程度

回答期限：2010 年 7 月 10 日（土）

\*このアンケートに関する一切の責任の所在は調査者本人にあり、調査結果は、2010 年 10 月以降に公開予定です。

ご協力を心より感謝致します。(北九州市立大学：水本光美)

\*\*\*\*\* アンケート質問 \*\*\*\*\*

問1 あなたの国籍と性別は？

1. 日本人女性 2. 日本人男性 3. 外国人女性 4. 外国人男性

問2 あなたの年齢は？

1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代以上

問3 あなたの現在の居住地は？

1. 東京都区内 2. 神奈川/千葉/埼玉/茨城/群馬/栃木/山梨  
3. 中部/近畿/中国 4. 四国/九州/沖縄 5. 東北/北陸 6. 北海道 7. 韓国

問4 現在の居住地以外で過去10年以上住んだことのある地方は？(複数回答可)

1. 東京都区内 2. 神奈川/千葉/埼玉/茨城/群馬/栃木/山梨  
3. 中部/近畿/中国 4. 四国/九州/沖縄 5. 東北/北陸 6. 北海道 7. 韓国  
8. なし

問5 あなたが家族と話す言語は？

1. 日本語 2. 日本語と外国語 3. 外国語

問6 あなたの職業は？

1. 日本語教育関係(日本語教師) 2. 日本語教育を専門とする学生  
3. その他

問7 あなたが今までに使用したことがある教科書は？

1. みんなの日本語 2. 会話の日本語 3. げんき 4. 文化初級・中級  
5. Situational Functional Japanese 6. Total Japanese 7. 中級の日本語  
8. ニューアプローチ 中級日本語 9. J Bridge 10. なめらか日本語会話  
11. 楽しく聞こう 12. まんがで学ぶ日本語会話術 13. 日本語生中継  
14. 日能試 試験問題(聴解・聴読解) 15. 日留試 試験問題(聴解・聴読解)  
16. Japanese for Busy People 17. その他

問8 現在の日本の若い世代(20代-30代)の女性は、ごく親しい友人や家族間のカジュアルな会話(普通体を用いた会話)において、女性特有の文末形式をほとんど使用しませんが、その事実について、

1. 知っている 2. 知らなかった

問9 日本語の教科書(副教材としての聴解問題集も含む)に男女の文末形式が対比的に紹介されていることに関して、

1. 必要だ 2. 不必要だ

問10 その理由は？

..... コメント欄(字数制限400字) .....



- 問 11 日本語の教科書のダイアログや会話や練習会話などで、若い世代の女性登場人物の発話に女性文末形式が使われていることに関して、
1. 良いと思う
  2. 若い年代は使うべきではないと思う
  3. 年代と場面により使うべきではないと思う
- 問 12 その理由は？

----- コメント欄 (字数制限 400 字) -----

(以下、他質問は本稿のテーマ「女性文末詞」には無関係であるため、省略する)

